

衰退と民法改正

平成23年12月24日に閣議決定された「日本再生の基本戦略」では、当面重点的に取り組む施策として、「経済のグローバル化等を踏まえた民法（債権関係）改正」を挙げ、「国際的にも透明性の高い契約ルールの整備を図るため、経済のグローバル化等を踏まえ、2013年（平成25年）初めまでに民

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2012年10月29日（月）NO. 275

地域から明るい未来を作ろう

法改正の中間試案をまとめる。」とした（P21）。経済のグローバル化に伴って、契約に関するルールを国境を越え標準化する動きが欧米及びアジアで加速し、この点でも民法（債権法）改正を必要とする主要な論拠とされています。

現行の民法保証人・連帯保証人制度自体は、グローバル化では明らかに馴染まない時代に入っています。融資の手抜きに利用する結果、金融機関、日本の衰退を助長したのです。

世界から特別の進化ドコモ、ガラパゴス化したのです。日本特有の自殺「二家心中」を意識的に助長したのです。日本弱体化に手を貸す無責任な財務省は万死に値する現場（税務署）では声を上げる者は戦後一貫し徹底的に抹殺します。一生平職員のままで過ごし、良く従う者に当然役職が保障されます。

※ 民法改正・契約のルールが百年ぶりに変わる（ちくま新書）を紹介

書評

日本の民法は、読んでもわかりにくい、ヨーロッパ諸国の民法に比べて条文数が少ない、条文からでは結論が導けないケースが多々ある。条文の少なさを理論書や判例で補う、学説や判例の成果を取り入れ、一般の人が読んでもわかるような民法になるように改正行いべき等を記述しています。

ノーベル賞、山中教授のips細胞の発見は、受精卵に近い「細胞の初期化」をやるうとした。そのため、三万ある遺伝子から初期化にかかわる遺伝子を見つける。

さしあたり二十四個の候補があつたので、助手が試しに全部混ぜ、皮膚細胞に掛けてみたところ、細胞の性質が変わり幹細胞になる事が分

かった。しかし、どれがどの細胞かは分からない。二十四個の細胞のうち一個を抜きとると現象は起こらないことに気づき、一回目の実験から短期間で四つの遺伝子が特定した。

従前ではない単純かつ独創的な実験で、予想を超えた世紀の結果が生まれたのです。

誰も足を踏み入れたことのない領域へ足を踏み出し

たのです。

すなわち予期せぬ変化や想定外は、新たな成功の「兆候」です。これまで疑わなかった常識や固定観念を打ち砕き、新次元を開いたのです。

自然界の法則、道理に従う「謙虚」さ、もしかしての仮説「ビジョン」がむしろ「正道」です。そして、人間が素直か正

狭き門から入る

直か「天」から問われます。誰も行かない困難な道から入る時、より多く学びより多くを得ます。

▽高校野球で160kmをだした選手が日本ではなくメジャーリーグに挑戦すると報じられていた。楽な道を行くなら日本のプロ野球だが、敢えて言葉や

習慣の壁を乗り越えてメジャーに挑戦すると言う辛い選択をしたわけだが、これは正解だと思う。

人生その節目節目で必ず分岐路が出て来る。どちらの方向に進むか。自分の場合悩んだら必ず辛い困難な方向へ進む事として来た。安易な道は選ばない、辛い方向にこそ活路が開かれる、また辛くてもやるしかないという強い意志があれば自分の能力以上のものが引き出せるはずである。楽な道と言うのは自分の能力を敢えて引き下げる様なものである。分岐路で悩んだら必ず辛く厳しい方向へ、これは人生成功するためのセオリーでもある。△YASUHIROマウンテンワールドより引用